



道 歯 技 広 報

The Bulletin of the Hokkaido Dental Technologists Association

2016 Spring No.6

Contents

- 巻頭言「コミュニケーション力」
- 学術「CAD／CAM 導入と有効活用のための判断基準」、「全身への影響」
- お知らせ：第3回社員総会開催案内、会員研究発表の募集、学術論文の募集
歯科技工用語手話研修会「見える話～歯科技工における手話～」報告・ご案内
- 第60回北海道歯科技工学術大会報告、平成27年度 地域組織会長懇談会報告
歯科技工士法制定ならびに公益社団法人北海道歯科技工士会創立60周年記念大会記念式典・記念祝賀会報告
平成27年度 障がい者実技研修会報告、平成27年度 札幌歯科技工学術研修会報告
見える話、新入会員
- 理事会報告

PC用ホームページ <http://www.dougi.or.jp/top.html>

携帯用ホームページ <http://www.dougi.or.jp/keitai.html>

巻頭言

『コミュニケーション力』

入社試験の面接で歯科技工士になろうと思ったきっかけを訪ねると、「手に職を付けたいと思いました」という返事が返ってくる。その他にもいくつかあるが「人と接するのが苦手なので…」という答えも珍しくはない。黙々と模型と向き合って歯を作るのだから人と話をしなくても大丈夫だと思っていたのかもしれないし、歯科技工士になるきっかけに良いも悪いありません。私が歯科技工士の資格を取得した頃には、まだ一部通用した考え方かもしれないが、これだけ患者のニーズが多様化し要求レベルが高くなって来たことで、我々歯科技工士にも歯科医師や患者との高度なコミュニケーション力が求められる時代になってきました。さらには歯科技工士同士でも組織として複数名が働いている歯科技工所では、上司と部下あるいは先輩後輩としてそれぞれの立場で人材育成が繰り返され、ここでもコミュニケーション力が重要になって来ます。

仕事を教えるうえでコーチングという言葉は今では一般的に聞くようになったものの、まだまだ私自身も深く理解は出来ていません。数年前に「アドラーの嫌われる勇気」などという本が大ヒットとなりその後も関連書籍が発売されている。その中では「ほめてはいけない」「叱ってはいけない」「教えてはいけない」といった事が書かれてあり、読んでいる方も混乱してき

ます。何が正しいのか、自分や組織に何が合っているのかを理解してから取り組まなければ、表面的なキーワードだけを用いて活用しようとする空回りするだけで何も変わりません。また色々な情報に惑わされ教える側が臆病になり部下や後輩の顔色やご機嫌を伺いながら接するようでは本来の姿から離れていくばかりです。

携帯電話が普及して20年以上が経過し、今ではスマホが当たり前の時代です。電車で周りを見渡せば誰もがスマホを操作している状況を見て、コミュニケーションのあり方についても考えさせられます。直接話をしなくてもSNSなどで用が済み、圧倒的に直接のコミュニケーション経験値が少ないまま社会に出ていく若者にとって、昔ながらの考え方で接してくる上司や先輩と向き合いながらも逞しく生き抜いて行くには相当な覚悟と勇気が必要ですし、若手歯科技工士を受け入れる側の覚悟と責任も試されているのかもしれない。

これからの歯科技工士は歯を作る技術だけではなく、コミュニケーションの技術ともしっかり向き合っていく必要性を感じつつ、歯科技工士学校の学生が新社会人として一步を踏み出すこの時期に、「コミュニケーションのあり方」について改めて心に問いかけながら取り組んでまいります。



CAD/CAM 導入と 有効活用のための判断基準

株式会社札幌デンタル・ラボラトリー 垂水 良悦

はじめに

当社は、歯科用 CAD/CAM の黎明期から導入・試行錯誤を繰り返し、これまでに数種のスキャナーと加工機を導入してきたが、中には期待していた程の運用がされていないシステムもあり、導入のタイミングの難しさを感じています。

今回は、歯科技工所が CAD/CAM を導入するのにあたり、当社が考える運用の判断基準を一例として説明します。

1. 運用の為の判断基準

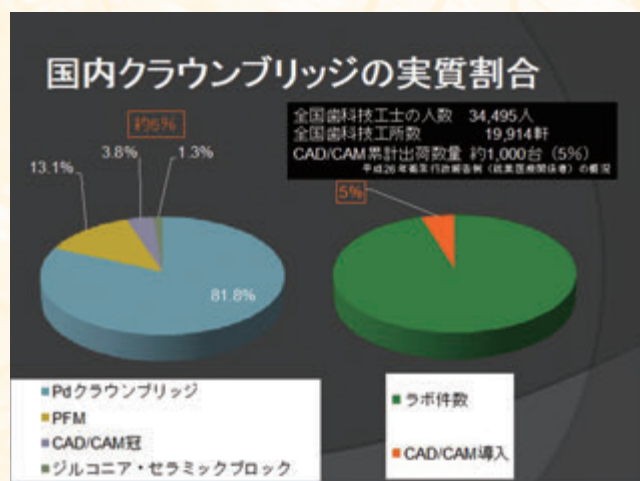


図1 補綴物の比率とラボ件数に対するシステムの割合

図1左はインレーを除いたクラウンブリッジの割合で、CAD/CAM システムで製作するものは全体の約5%です。図1右は平成26年の厚生労働省の統計結果に基づいたもので、全国のラボ件数に対しての CAD/CAM システムの出荷数の割合で、約5%と上記と同等の割合です。現在のシステムの性能から考えると十分な台数であり、今後、CAD/CAM で対応できる補綴物の範囲が広がる可能性もありますが、現時点ではこのクラウンブリッジの5%の範囲の中での CAD/CAM の運用が考えられます。単純にシステムを導入するだけでジルコニアや CAD/CAM 冠で収益の増加を見込むことは、難しい状況であることは想像し

ていただけたと思います。

また、道内の CAD/CAM 冠の市場として厚労省に登録している歯科医院は56%ほどで、厚労省の見込み本数などから換算すると、歯科医院1軒から依頼を受ける CAD/CAM 冠は月平均2.8本となります。CAD/CAM システムの減価償却の目安としては「1日2本の仕事で利益が出る」と言ったセールスをしているメーカーもありますが、上記の計算から15.7件の取引先が望まれ、規模としては技工士が5名ほどのラボが該当すると考えられます。(図2)。

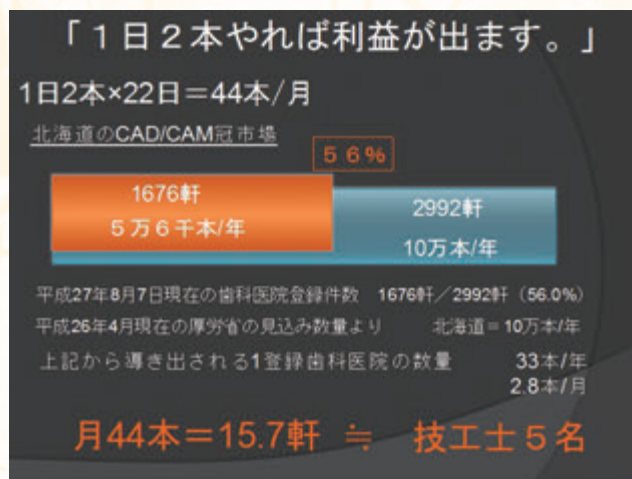


図2 道内の CAD/CAM 冠市場と適正と思われるラボの規模

スキャナーだけでなく、加工機も導入するラボであれば、加工機の稼働率にも注目します。一日2本の CAD/CAM 冠の加工ならば日中(12時間)では8%と非常に低い稼働率となります。我々が休んでいる間も加工機が仕事をしてくれるといったことが、機械化のメリットであるため稼働率を上げたいところですが、加工時間8時間で換算すると稼働率は67%となり、1日16本は歯科技工士が40名ほどのラボが相当します。(図3)中規模以上のラボであれば CAD/CAM システムを導入しても採算が獲れると考えられますが、少人数ラボでジルコニアや CAD/CAM 冠の市場に後発で参入しても減価償却には時間がかかるものと考えられます。

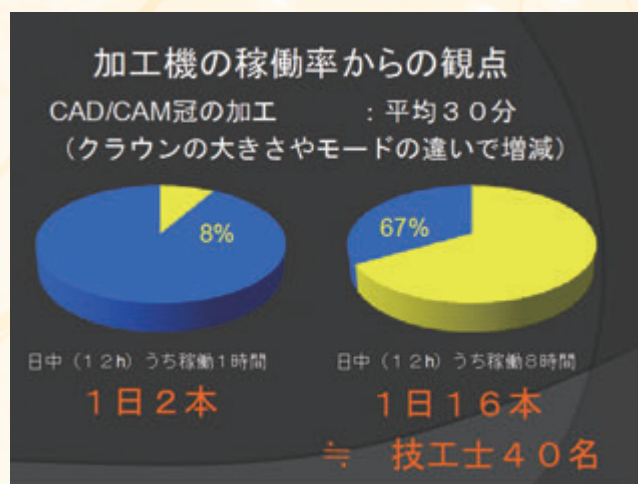


図3 加工機の稼働率から考察する適正ラボの規模

2. 時短と売り上げ向上を達成した導入事例

CAD/CAM導入を作業工程の改善として、時間短縮と売り上げを伸ばした一例を紹介します。このラボは2名の歯科技工士が1日でメタルの仕上げをするスケジュールで、1日のクラウンブリッジ平均は45本ほどで終了時間が23時と遅い環境でした。

工程改善として、オペレーターとしての増員とワックス加工機のCAD/CAM導入をした結果、終了時間が20時と時間短縮が図れ、製作本数も60本と増加しました。(図4)



図4 CAD/CAM導入による時間短縮

メリットとしては、夜間に切削の工程を持ってくることで時間の有効活用ができています。作業効率グラフ化するとより工程改善の効果がわかっていただけだと思います。(図5) 改善前と比べて一人当たりの製作本数は減ってはいますが、若年層の歯科技工離れは、システムの導入と増員による経費と売上げの関係で、月あたり22日の稼働日で1本2,000円の換算

で月の売上げを算出し、システムのリース代と増員分の人件費を差し引いても38万円の売上げが上がっています。(図6)

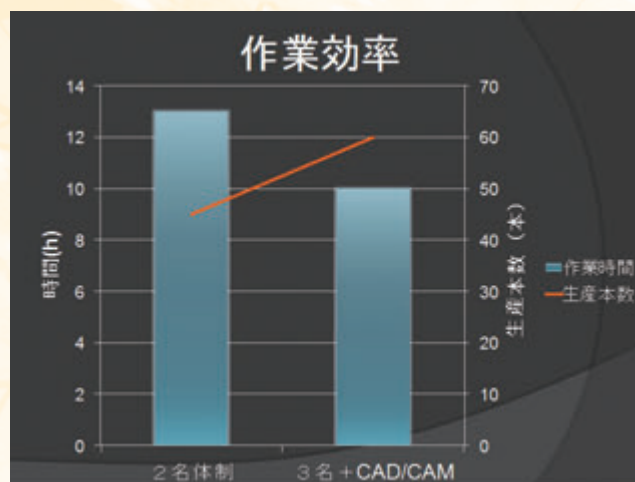


図5 体制の変更による作業効率

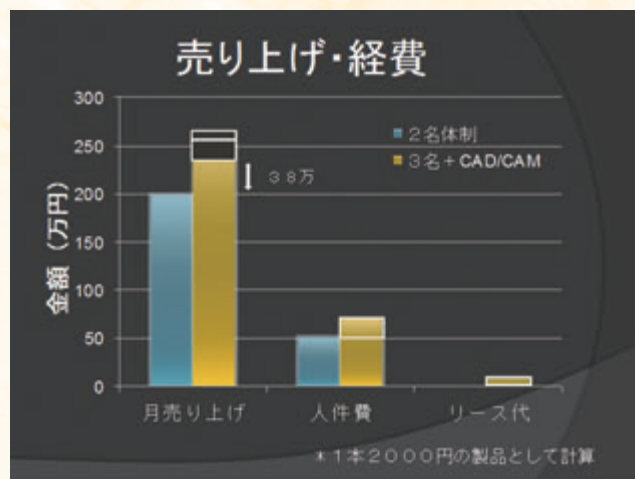


図6 体制の変更による売り上げと経費

さいごに

ラボの規模、受注している仕事の内容などそれぞれの環境がある中、自社の状況を正しく判断して適切な用途でCAD/CAMシステムを導入することが成功の秘訣と言えます。環境は常に変化していくものであり、自社非対応の製品は加工委託から受注量の増加に伴い加工機の増設をするなど、柔軟な対応がこれからのラボに必要なことと思われます。

『全身への影響』

歯を失うことの全身への影響



歯を失う原因のトップは歯周病です。

むし歯に比べ自覚しにくいこともあり、ようやく歯科医院に訪れたときには歯の保存が不可能な状態まで悪化しているようなケースも少なくありません。

多くの研究から、失った歯の数が一定のラインを超えると、ものをかむ能力の著しい低下が見られることがわかっています。それが、80歳で20本の歯を残そうという8020（ハチマルニイマル）運動の論拠ともなっています。

すなわち、20本より少なくなると、食べ物をかむことが不自由に感じる人が増

え、そのことにより食べるものに偏りができ、生活習慣病を招いたり、低栄養を招く可能性があります。そのほか、「かむ」ことが視覚や聴覚、記憶力等にも影響を与えともいわれ、かめる歯を残すということ、そのこと自体が全身の健康維持にもつながるのです。

※財団法人8020推進財団：永久歯の抜歯原因調査報告書；2005.3

※吉武裕：高齢者の体力と口や歯の関係、口腔と全身の健康との関係Ⅱ；財団法人8020推進財団、東京

歯周病の全身的な影響

ブラーク中など口の中に存在する細菌はさまざまありますが、歯周病原菌は、血液中や粘膜の上皮や血管の内皮などからも侵入して増殖することができるため、血流に乗って全身に疾患を引き起こす危険性をもっています。

たとえば、心筋梗塞で亡くなった方の冠状動脈から歯周病原菌が検出されたり等、口以外の場所の病巣で検出されるケースも少なくありません。さらに、歯周病原菌の毒素は、菌が生きていなくても血中にあると全身に炎症を起こすこともあるため、さまざまな角度から研究がすすめられています。

また、心臓や血管以外にも気道に入り込み呼吸器系の感染症（肺炎など）を引き起こしたり、糖尿病におけるインスリン抵抗性や子宮の収縮による早産、低体重児の出産などにも関連深いことがわかってきています。

歯周病は、口の中だけの問題ではなく、命にも関わる全身的な疾患にも影響することを認識したいものです。



(MI21.net)

お知らせ

●● 第3回社員総会開催案内 ●●

下記日程で社員総会を開催いたします。

日時：平成28年5月21日(土) 午後1時より(予定)
場所：北海道歯科技工士会館3F(札幌市北区北37条西4丁目3-8)
議題：(1)平成27年度決算及び活動報告について
(2)平成28年度収支予算(案)及び活動計画(案)について
(3)その他 ※関係者の皆様には改めてご連絡致します。

●● 会員研究発表の募集 ●●

下記の学術大会での会員研究発表を募集します。

第61回 学術大会 千歳市 平成28年9月24日(土)予定

講演料(五千円) 広報掲載原稿料(五千円)

お問い合わせ

〒001-0037 札幌市北区北37条西4丁目3-8 公益社団法人北海道歯科技工士会 011(717)7155

●● 学術論文の募集 ●●

公益社団法人北海道歯科技工士会は、歯科技工技能水準の向上と安全で安心な歯科補てつ物等の提供等により道民の健康増進に寄与するための公益事業として、「学術優秀論文表彰」を行っております。下記のとおり「学術論文の募集」を行いますのでご応募下さい。

- 目的：歯科技工士ならびに歯科技工士学生の学術研鑽意欲の向上を図る目的で、応募のあった中から最優秀論文を選考し表彰する。
- 対象：北海道で就労している全ての歯科技工士および北海道内の歯科技工士養成機関の本科学生および専攻科等の学生
- 論文内容：歯科技工技術知見に係わる全般で、文字数および図表等の枚数に制限はありません。
- 募集期間：平成28年1月4日～平成28年12月23日まで 事務局必着
- 選考方法：応募期間中に寄せられた論文は、外部選

考委員も含めた3名の選考委員によって最優秀論文を選考、決定して表彰するとともに、「道歯技広報」等で紹介します。最優秀論文受賞者には、さらなる学術研鑽を積まれるように副賞を授与します。

■副賞：最優秀論文受賞者には、さらなる学術研鑽を積まれるように副賞を授与します。

■選考委員：【外部選考委員】
北海道大学大学院歯学研究科 横山 敦郎 教授
北海道医療大学歯学部 越野 寿 教授
【内部選考委員】
公益社団法人北海道歯科技工士会 八重樫新一 会長

【問合せ先】
公益社団法人北海道歯科技工士会事務局
〒011-0037 札幌市北区北37条西4丁目3-8
TEL (011) 717-7155 FAX (011) 717-6954
e-mail dougi@abelia.ocn.ne.jp

●● 歯科技工用語手話研修会 「見える話～歯科技工における手話～」報告・ご案内 ●●

北海道歯科技工士会館において第3回(12月6日参加7名)、第4回(1月9日は中止、2月6日参加4名)と開催しました。北海道デフ歯科技工士協議会から3名の協力をいただきました。1月が中止となり、久しぶりの研修会になってしまいました。内容は両日とも、開催日近くに実施された研修を中心に手話表現をしました。参加者から「DVDで復習が出来たら良い」「日曜日の開催を」との要望もいただきました。対応できるように考えたいと思います。覚える事が多いのですが、言葉は何度も使うことで身につきます。手話も同様、忘れて覚える事を繰り返し、使っていくことで自分のものになります。「ちょっとおもしろい」と感じられるような時間になれば幸いです。

今後の予定は下記の通りですが、日曜日でも開催可能です。ご相談ください。

皆さんの参加をお待ちしています。(参加対象者は歯科技工士、歯科関係者、歯科技工の手話に興味のある方々です。皆様のお知り合いの方にもお知らせください。)

なお、事前の参加申し込み・開催日の確認は、下記

まで連絡をお願いします。

北海道歯科技工士会館

(TEL: 011-717-7155・FAX: 011-717-6954)

研修日程予定 場所：北海道歯科技工士会館3階
第5回 3月5日(土) 19:00～20:30
第6回 4月2日(土) 19:00～20:30
第7回 5月7日(土) 19:00～20:30
第8回 6月11日(土) 19:00～20:30
第9回 7月2日(土) 19:00～20:30

※この研修会は、視覚情報でより分かりやすく、いつでも、どこでも、だれでも専門的内容をスムーズにやり取り(コミュニケーション)できることを目指し企画しました。(～2017年3月まで、月1～2回開催予定)



●● 第60回北海道歯科技工学術大会報告 ●●

理事 濱本 範俊

さる10月3日(土)北見芸術文化ホール「北見市」で第60回北海道歯科技工学術大会が開催され、有限会社デンタルセラミックアート 鎌田英樹先生より『History of my ceramic II』、秋田大学医学部付属病院歯科口腔外科 田中清志先生より『顔面補綴(エピテーゼ)』のご講演をいただきました。また、会員研究発表では、足立俊哉氏より『基本概念に基づいたRPDによる補綴設計の提案』、垂水良悦氏より『CAD/CAM導入と有効活用のための判断基準』を発表していただきました。

鎌田英樹先生からは、これまで使用された陶材の変、減圧陶材築盛法、デジタル機器、CAD/CAMに対するお考えなどをご講演いただきました。

1960年代のセラミック操作は、人工歯を削合したボストクラウンやシェル状にした陶歯を頬側及び唇面に貼り付けるロングピン、リバースピン、デビスクラウン、チューブ陶歯などのピンテクニックでした。

1970年代には、アルミナスポーセレンジャケットクラウン、プレシヤスメタル等の焼付用金属を用いたメタルボンドが、陶歯前装鋳造冠や陶歯前装継続歯に替わって取り入れられる様になりました。その後、インセラム等の発売によりオールセラミックスブリッジなどが可能となり、プレスセラミックスなども広く普及しました。

昨年4月からは健康保険にCAD/CAM冠が導入され、CAD/CAM装置を使用して製作される補綴物が、以前に比べ普及したように感じます。しかし、CAD/CAM装置を使用して製作される補綴物に比べ、私

たち歯科技工士によって手作業で作られた補綴物の方が、高く評価される様な仕事をしなければならないと感じました。

田中清志先生からは、秋田大学医学部付属病院歯科口腔外科で製作している、顔面補綴(エピテーゼ)や、その他の症例をご紹介頂きながら、制作方法などをご講演いただきました。

顔面エピテーゼは、顎顔面領域に用いる補綴装置の事で、腫瘍、火傷、怪我、先天性などによる、顔面部の欠損補綴を目的としており、形成外科、口腔外科などで治療および研究開発が行われています。

顔面エピテーゼには、鼻エピテーゼ、耳エピテーゼなどがあり、製作は義肢装具士、歯科技工士が行うことが一般的です。日本での顔面エピテーゼ治療は、医療行為として認められておらず、装身具扱いとなり保険対象外となってしまいます。その影響もあり、欧米に比べ症例数が少なく、認知度も低い状態でした。しかし、広島大学歯学部口腔保健学科で、歯科技工士の養成課程で顔面エピテーゼのカリキュラムが導入されてからは、少しづつではあるが認知度も高まってきており、法の整備が求められてきています。

歯科技工士にとって、顔面エピテーゼを製作できることが、手探り経営から脱出する方法になるとともに、歯科医療ならではの新しい価値創造になるかもしれないと感じました。

最後にこの度の研修会に於いてご尽力いただいた講師の諸先生、各地域歯科技工士会の会長様、そしてご参加頂いた皆様に深く感謝申し上げます。

●● 平成27年度 地域組織会長懇談会報告 ●●

常務理事 山本 英樹

平成27年11月7日(土)午後1時より、北海道歯科技工士会館に於いて、平成27年度地域組織会長懇談会が開催されました。

山本常務理事による点呼の終了後、当会の渋川副会長が議長に選出され、(会議が開始された。)八重樫会長の挨拶の後、議題に入り、扇専務理事より平成28年度活動方針(案)として、「創立60周年の節目を迎えた今、当会の堅実な会務運営、積極的な組織拡充策の実行、歯科技工士の環境整備に向けた取り組み等を誇りと使命感をもって進めていかなければならない」との説明がありました。



次に平成28年度各部門事業計画(案)、平成28年度会計収支予算(案)、平成28年度学術事業(案)について、各担当者により説明があり、組織拡充に向けた取り組みについての話し合いが古田副会長のもとで行われ、会員数の減少が続く厳しい現状の中、どのようにして組織の拡充を図っていけばよいのか、各地域歯科技工士会の現状も踏まえたうえで、時間をかけて話し合われました。

続いて渋川副会長より道技代議員選挙についての説明があり、報告事項に移り、(はじめに)扇専務理事より2015年度第4回日技社員総会について報告があ



り、議事日程に則り、平成27年度各部事業中間報告、平成27年度会計収支決算中間報告が各担当理事より報告されました。

その後、専務理事による平成27、28年度事業報告、戸島副会長による平成27年度ブロック学術委員会報告があり、最後に戸島副会長より、日技が新たに導入し

た歯科技工士生涯研修カードの運用について、導入の経緯、道技の会員カードとの違いなども含め、詳しく説明されました。

以上で議事日程をすべて終了し、閉会となりました。

歯科技工士法制定ならびに

● ● 公益社団法人北海道歯科技工士会創立60周年記念大会 ● ● 記念式典・記念祝賀会報告

専務理事 扇 照幾

平成27年11月7日(土)札幌全日空ホテルに於いて「歯科技工士法制定ならびに公益社団法人北海道歯科技工士会創立60周年記念式典・記念祝賀会」が「歯科技工士の誇りを未来の次代に繋ぐ」をスローガンに掲げ開催されました。

記念式典では、渋川充副会長による開会の辞の後、主催者を代表して八重樫新一会長が式辞を述べました。続いて公益社団法人日本歯科技工士会杉岡範明会長よりご挨拶を頂きました。

その後、北海道知事感謝状、公益社団法人北海道歯科技工士会会長表彰、優良会員表彰の授与が行なわれ、受賞者を代表して狩野二三夫氏に謝辞を頂きました。

来賓を代表して、高橋はるみ北海道知事（代理山谷吉宏様）一般社団法人北海道歯科医師会会長 藤田一雄様（代理高橋雅一様）一般社団法人北海道歯科衛生士会会長 武藤智美様から、それぞれご祝辞を頂き、古田副会長の閉会の辞で記念式典を終えました。

式典終了後、出席者には同会場に於いて各賞ごとに表彰状授与式が行われました。

記念祝賀会は、大会長である八重樫新一会長、公益社団法人日本歯科技工士会杉岡範明会長の挨拶に続き、ご来賓を代表して参議院議員 伊達忠一 様、北海道大学大学院歯学研究科教授 横山敦郎様、札幌歯科学院専門学校学院長 尾崎勝巳様、北海道議会議員 千葉英守様にご挨拶をいただきました。

その後、北海道歯科技術専門学校学校長中田久夫様のご発声で乾杯し、今期受賞された厚生労働大臣表彰者の大澤孝氏、下澤正樹氏の紹介などのスピーチ等とおいしいお料理をお楽しみいただきながら、参加者同士、交流と親睦を深めていただきました。宴の締め乾杯は吉田学園医療歯科専門学校校長 高悦夫様に頂きました。お開きの挨拶を大会副会長 公益社団法人北海道歯科技工士会副会長 戸島和之より謝辞を添えて申し上げて記念祝賀会は終了致しました。

記載させて頂きました方々より、ご寄付を賜りました。

賜りました浄財については、大会運営に有効に活用させて頂きました事を報告し、お知らせ申し上げます。心より感謝申し上げます。



記	
公益社団法人北海道歯科技工士会 参与会様	250,000円
札幌歯科技工所経営者協会様	100,000円
函館歯科技工士会様	80,000円
北見歯科技工士会様	10,000円
釧路歯科技工士会様	10,000円
十勝歯科技工士会様	10,000円
大隈三津子様	10,000円
野原 逸夫様	30,000円

杉岡 範明様	30,000円
堀井 忠則様	10,000円
八重樫新一様	30,000円
計	570,000円
	以上

●● 平成27年度 障がい者実技研修会報告 ●●

常務理事 工藤三重子

平成27年11月29日(日)10時～16時迄、吉田学園歯科医療専門学校において平成27年度障がい者実技研修会が開催されました。昨年に引き続き、講師を務められた松平浩先生は、自ら手話も交えながら受講生とのコミュニケーションをとりながら進められました。

前半は「義歯の設計と概念」についての講演の後、模型のサベイング、設計、ブロックアウトの実習を行いました。後半は、実習の後、「義歯の製作に関して～解剖学・配列など～」について講演されました。咬合が全身に影響する例として、顎位を変える事で体を横から押される力に耐えられる等、受講生が実感できる場面もありました。昨年同様に中身の濃い内容でしたので、後日、資料を送って欲しいとの受講生からの



要望も出されていました。

開催日の前後は天候も思わしくなく心配しましたが、無事終了し充実した研修となりました。

●● 平成27年度 札幌歯科技工学術研修会報告 ●●

札幌歯科技工士会 理事 小野寺秀樹

平成28年1月16日(土)13:00～17:30まで「札幌全日空ホテル」にて札幌歯科技工学術研修会が開催されました。当日は、参加受講者は250名を超え、そのうち学生の方58名の参加がありフレッシュな中での研修会となりました。

講演Ⅰは、有限会社 DEL アーチ代表取締役－橋本誠先生により『小規模ラボこそ導入すべき！CAD/CAM システムメリット～私の選択基準～』と題して御講演頂きました。小規模ラボにとってCAD/CAM システムは、興味があってもなかなか手の出ない存在となっていると思いますが、しかし、その大きなメリットとして「作業時間の大幅短縮、高精度」を挙げていらっしゃいました。特に長いケースになるとその差は歴然です。これから導入される際は、必ず実際に触れてみる事が必須条件とのことでした。講演最後の、「機

器が全てをやってくれると思いがちですが、今までアナログ技工で培ってきた知識や経験、技術がなければ、その性能は最大限には、発揮できない」とのお言葉が、印象的でした。

講演Ⅱは、Dental-Design-Days-戸田篤先生により『総義歯を設計していますか～知っておきたい臨床知識～』と題して御講演頂きました。総義歯製作における基本中の基本から、その基本を極限にまで追究した内容で大変興味深い内容でした。私（筆者）は、様々な義歯製作の中で、上下総義歯製作が最も難しいと思っています。それは、他の補綴に比べ情報が少なく、自ら設計する部分が多いという点でしょうか。今回は普段何気なく行っている作業一つ一つに「なぜ？ どうして？」の疑問を問いかけ、戸田先生のお考え方を説明する流れで、学生の方々にも大変参考になったの



ではないでしょうか。「良い歯（義歯）が入ったときの患者様の笑顔を見る為に歯科技工士をやっています。」とのお言葉に感銘を受けたのは私だけではないでしょう。

最後になりますが、今回、御協力いただきました皆様に心よりお礼申し上げます。



● ● 見える話 ● ●

常務理事 工藤三重子

「歯科技工に関わる手話」

専門用語の手話は日常的な手話と指文字（あ～んの50音を表現したもの）の組み合わせで表現することが多いと前号でも書きましたが、次の「CAD/CAM」アメリカ手話のアルファベットと指文字の組み合わせ

です。「保険」は指文字と手話の組み合わせです。手話で「学校」「入る」と表現すると「入学」になります。

1. CAD/CAM

	CAD（口形：キャド） 左手を丸めCの形（アルファベットC）にし、右手指文字「ト」を外側横に移動させる（濁点「ド」）		CAM（口形：キャム） 左手を丸めCの形（アルファベットC）にし、右手指文字「ム」
--	--	--	---

※ASL：（American Sign Language アメリカ手話の略）、アルファベット「C」の表現です。

2. 保険導入

	保険（口形：ホケン） 右手人差し指と親指で丸を作り、左手指文字「ホ」の前から、前方に出す。 （手話→金）を前に出すと（手話→支払う・買う）		導入（口形：ドウニュウ） 左右の人差し指で漢字の「入」を作り、そのままの形で前に出す。 （手話→入る）
--	---	--	---



● ● 理 事 会 報 告 ● ●

● ● 平成27年度第5回理事会報告 ● ●

■日 時：平成27年10月24日(土)18：00～19：00

■場 所：北海道歯科技工士会館 1 階会議室

1. 会長挨拶

11月7日に行われる地域組織会長懇談会および道技創立60周年記念大会授与式そして祝賀会に対して、各自役割分担を理解し協力して大会に当たってほしい旨、挨拶があった。

2. 承認事項

- (1)事業及び派遣役員承認の件 ……………【承認】
- (2)平成28年度各部事業計画（案）承認の件 ……………【承認】
- (3)平成28年度一般会計収支予算（案）承認の件 ……………【承認】
- (4)平成27年度地域会長懇談会議事日程承認の件 ……………【承認】
- (5)平成27年第1回歯科技工技術研修会講師選定承認の件 ……………【承認】
- (6)入会者および退会者承認の件 ……………【承認】

3. 報告事項

(1)職務執行状況

- ①道技創立60周年各種表彰者についての報告。
- ②道技創立60周年記念誌、第3回編纂委員会の進捗状況の報告。
- ③道技創立60周年記念大会授与式・祝賀会の参加者および記念式典と祝賀会の式次第について報告。
- ④平成27年度上半期会計監査の報告。

(2)生涯研修に関する報告

- ①第145回北海道歯科技工技術研修会は室蘭市にて9月12日(土)に実施、決算報告及び顚末書の報告。
- ②第60回北海道歯科技工技術大会は北見にて10月3日(土)に実施、決算報告及び顚末書の報告。
- ③平成27年度第2回北海道障がい者歯科技工士研修会について、決算報告及び顚末書の報告。
- ④10月17日開催の第1回手話研修会報告。
- ⑤歯科技工士生涯研修カードの運用に必要な機材等についての説明。
- ⑥12月5日に計画していた日技指定研修が講師の都合により開催できなくなり、北海道は次回に計画したいとの報告ならびに確認。

(3)広報に関する報告

- ①道歯技広報5号のページレイアウトについて報告。
- ②ホームページの更新状況の報告。
- ③アンケート集計報告について報告。

(4)財務に関する報告

- ①9月期の予算執行状況について報告ならびに説明。

(5)就労対策に関する報告

- ①9月末組織現況および9月末入退会者について報告。
- ②各地域技工士会より提出されている組織拡充支援金の申請書状況について報告。

(6)その他の報告

- ①第23回日本歯科医療管理学会北海道支部学術大会の報告。
- ②日本歯科衛生学会第10回学術大会ならびに懇親会の報告。
- ③鍼灸師会「道・市民公開講座」の報告。
- ④歯科技工業務功労者の厚生労働大臣表彰の報告。
- ⑤日技創立60周年地域交流記念大会の報告。
- ⑥創立60周年記念式典における知事感謝状の贈呈の報告。
- ⑦補助金の交付決定の変更の報告。
- ⑧北海道医療技術者団体連絡協議会理事会開催の報告。
- ⑨2015年度献血ボランティア活動実施意向の確認。

● ● 平成27年度第6回理事会報告 ● ●

■日 時：平成27年12月5日(土)18：00～19：00

■場 所：北海道歯科技工士会館 1 階会議室

1. 会長挨拶

組織拡充については当会が中心になって進めて行く必要があり、今後も協力して会務に当たってほしい旨、挨拶があった。

2. 承認事項

- (1)事業及び派遣役員承認の件 ……………【承認】
- (2)平成27年第1回歯科技工技術研修会承認の件 ……………【承認】
- (3)第146回北海道歯科技工技術研修会講師選定承認の件……………【承認】
- (4)平成27年第2回歯科技工技術研修会承認の件 ……………【承認】
- (5)入会者および退会者承認の件 ……………【承認】

3. 報告事項

(1)職務執行状況

- ①平成27年度地域組織会長懇談会会議の報告。
- ②会創立60周年記念大会の収支決算の報告があり、寄付を頂いた方の氏名は会報に載せ、寄付金は公益法人の活動に使用する。道技創立60周年記念誌、第3回編纂委員会の進捗状況の報告。
- ③平成27年度生涯研修事業は決まっているが、今後研修の内容や回数などを含め、検討を重ねていく。

(2)生涯研修に関する報告

- ①平成27年度北海道障がい者歯科技工士実技研修会についての顚末書の報告。
- ②生涯研修カード運用に伴う受付用ならびに講演用のパソコンは、用途に応じて購入する。
- ③第2回、第3回手話研修（歯科技工用語）は参加者が少なかったの、参加の呼び掛けをお願いしたい。

(3)広報に関する報告

- ①道歯技広報5号の原稿について報告。
- ②ホームページの更新状況の報告。
- ③今年度のアンケートは第146回研修会（小樽）での生涯研修が終了した時点でまとめたものを提出する。この意見や要望は、出来るところから取り入れたい。

(4)総務に関する報告

- ①平成27年度第5回理事会議事録について報告。
- ②道技代議員選挙管理委員会地域選挙管理者名簿について説明。

(5)財務に関する報告

- ①11月期の予算執行状況について報告。

(6)就労対策に関する報告

- ①11月末組織現況および11月末入退会者について報告。
- ②各地域技工士会より提出されている組織拡充支援金の申請書状況について報告。

(7)就労対策機会均等に関する報告

- ①「新卒者入会促進費」今年度の支援金は、未納入会費の件も含め地域歯科技工士会長と協議する。

(8)その他

- ①平成28年度秋の叙勲・褒章候補者の推薦条件等の説明。
- ②「いきいき健康フェスト2016」は7月3日に開催され、当会も参加する。本会が所属する医団協パネル展は夏休み期間（8月予定）に実施すると報告あり。
- ③組織拡充のために情報発信と共有を全会員まで伝える必要性を考慮した、HPのリニューアルを含めた計画案の説明。
- ④道庁から道内の聴覚障がい歯科技工士人数の問い合わせがあり、地域歯科技工士会への調査依頼を行う。